

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902710		
法人名	株式会社アイエスティサービス		
事業所名	グループホーム花の丘		
所在地	北海道旭川市南が丘2丁目1-23		
自己評価作成日	令和6年2月8日	評価結果市町村受理日	令和6年5月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172902710-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和6年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少しずつコロナ禍による行動制限が減ってきていますので、今年の春～秋の天気が良い日には外出をして入居者様に楽しんで頂けるよう計画しています。コロナが収まってきたとしても消毒や手洗い、その他の衛生管理は続けていきます。ここ数年は室内での行事を特化致しました。体操や音楽療法などで専門家を定期的に呼び、リハビリを兼ねた運動や、脳の活性化、などを楽しんで頂きながら進めてきました。天気の良い日は外出ではなく施設の裏にあるウッドデッキで焼肉をしたり、カフェのようにしてお茶をしながら景色を眺めたりと、なるべく外の空気と日光を浴びて豊かな気持ちになるように努めました。昨年からの施設行事などの動画を作成するようになり、見学に来て頂いたご家族様には日常どのように過ごしているのか、どのような行事内容なのか、表情はどのようなか、をお伝えしています。入居者様のご家族にも送って楽しいような表情や、行事によっては着物を来て頂いたり、習字を書いて頂いたりなどの様子を送り、安心して頂けるようにしています。市が開催する展示会には入居者様が作成したお花のオブジェや、壁飾りなどを展示してご家族や一般の方に見て頂けるように致しました。作品を褒められたり、頼られたりが生活する上で大事なことです。新しいこともこれから色々と考え行動していくと計画しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1) 事業所の基本事項： 国道12号線に程近い南が丘地区の閑静な住宅街にあり、交通、買い物に至便な環境下に立地している。
2) 職員の介護への基本姿勢・態度： 職員は管理者を中心に事業所理念を介護の基本として研修を重ね、利用者の安心・安全・家族の信頼関係維持に努めて、真摯に介護に専念している。地域密着型サービスとして、地域との協力関係継続を目標に、行事への積極的参加や福祉に関する相談に応じる等で、連携を深めている。
3) 家族の介護支援への好感等： 、生活状況や受診結果、食の楽しみ等をYouTube、LINEの活用も加え、多様な情報発信に努めている。また、体力、能力維持への取り組みも尽力されており、家族からも高い満足度を得ている。
4) 運営推進会議開催状況： 家族、地域関係者、地域包括等の参加・協力を得て、集合型で定例開催。資料を基に運営状況を説明して、参会者の意向を運営に反映するように努めている。
5) 自治組織・機関等の連携： 町内会組織は現状でまだ自粛傾向にあるが、施設・地域行事や災害時の地域との相互の協力と参加があり、連携と役割を担っている。5類への緩和を機に、改めて地域との関係構築に向け、取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はリビングの見やすいところに提示しています。スタッフ会議や運営推進委員会で再度確認し、話し合いその人らしい暮らしができるよう取り組んでいます。	各所に理念を掲げ、日常的に共有している。また、介護姿勢、理念の達成度について定期的にスタッフ会議の場で検証、協議しながら、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの感染症の影響によりほぼ中止になっていますが町内の掃除や廃品回収に参加しています。	町内の清掃、廃品回収等の地域活動に参加している。現在は、地域包括支援センターの認知症についての普及・啓蒙活動に参加し、事業所の活動について発信している。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談などが気軽にできるように、取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症も落ち着いたら、行事を開催し、事業所に対する理解が深まるような取り組みをしたいと考えています。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス蔓延の為、収束してから情報を発信していきます。書面で出た内容については、課題解決をし意見をスタッフに報告しています。	家族、地域代表、包括支援センター等の参加・出席を得て定期開催している。行事や職員研修の説明に留まらず、事故についても報告し、サービスに結び付けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政とは管理者が報告書を持参し、説明助言をいただいています。Zoomによる地域包括支援センター主催の研修会や委員会に参加させていただいています。	市、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを得ている。また、包括主催の活動への参加・協力や運営状況や事業所での取り組みについて報告し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は急な状況場面を除き、行なわない方針です。スタッフには内部研修、外部研修年4回の身体拘束適正化委員会を行い身体拘束のないケアに取り組んでいます。	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と、不適正ケアの事例検討や予防方法等、研修を行いながら拘束虐待等はあってはならないケアとして認識、確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や虐待防止委員会を行い、不適切なケアについて、見直す機会を作り虐待防止に努めています。虐待防止についてはスタッフ間で会議でのカンファレンスや朝礼で見直す機会を作り虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で活用されている方はいらしやらないが内部研修で年1回勉強回を行っています。外部の研修にも参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書を基に、ホームの理念、グループホームの役割、生活支援、リスク等の説明を行い、事前に同意を得ています。不明点がある場合はその都度対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、隔月でホームのお便りを発信し、入居者様の様子がわかるようにしています。日常の様子もこまめにメールやLINE、YouTubeの活用し、ご家族様からの質問や意見や要望を言いやすい環境を構築しています。	苦情等への組織的対応を整えるとともに、お便りやLINE、YouTubeの活用で利用者の生活状況を伝える事で家族からの意見や苦情を掘り起こし、誠実なサービス内容になるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や業務の他に、ラインなどのツールを使い、職員の提案がしやすい機会を心掛けています。定期的に個人面談を行い、意見・提案を聞き、実行するようにしています。	職員会議やLINEを活用し、自由な意見、提案がしやすいよう努め、日々の申し送りや研修時でも時間を設けて、話し合う機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与増額を考え、処遇改善加算申請などを行い、それに伴うキャリアパスを就業規則で定めて評価しています。有給休暇の取得ができるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修の参加を促し、受講できるように配慮し、外部研修はリモート研修で参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地域包括支援センター主催のグループホーム交流会等、定期的に参加し、ネットワークの関係を作っています。職員の参加を踏まえたWeb研修や、催事など行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に十分な見学や面談等ができる機会を設けています。ご本人の不安や要望に応え、繰り返し確認をし、ご納得してから入居して頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思い、要望を十分に受け止め、相談や確認をしながら関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様とご家族様のお話を十分にお聞きし、入居者様やご家族様の要望を反映するように心掛けています。また生活するうえで要望に応えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることを尊重し、一緒にできることは共に行き、できないことは、お手伝いさせていただき相互の関係の中で、支援できるようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お便り、電話、メール、面会時に情報提供を行い関係を築いています。ご家族様の思いを伺い、ご本人が充実した生活を送れるよう、努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響もあり、玄関での面会を実施していました。個人での外泊は自粛していました。手紙や電話、ラインやYouTubeなどで施設内の状況をわかるようにしています。	友人や家族との語らいや、なじみの味覚、見慣れた風景も大切に取り扱い、また今までの習慣に従って、墓参りや参拝等も家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係が円滑にいくように、関係を把握し、座る位置など配慮しています。時には仲介に入りコミュニケーションが図れるようにスタッフ同士で情報を交換し共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後には、ご家族様にお電話で、関係性を継続し、介護の相談に協力しています。状況をお伺いしている医療機関や、他施設に転移された方は、相談員などに状況をお伺いしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様またはご家族様からの思いや意向を聞き取り入れ、日誌にはご本人の言った言葉を記入し、職員間で入居者様の思いがわかるようにしています。	生活を支える中で、希望や思いを理解して意向に沿えるように努めている。意思疎通が困難な場合でも仕草や表情から、また本人の職歴や生活史から本人本位の生活になるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣や生活状況を、入居者様やご家族様からお伺いし、職員間で情報を共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情、言動、体調などから、精神状態を把握し記録や申し送りで職員間の情報の共有を図っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3か月～6ヶ月で見直しご家族様等の意向や入居者様の状況を把握し、状況にあった介護計画を作成しています。	本人と介護にかかわる全職種や家族からの意見を踏まえて、定期的にカンファレンスを実施し、見直している。また急変時は直ぐに介護計画を見直し、現状に即した介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の個人日誌の他に連絡事項や申し送りノートで情報共有と介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響もあり、以前のようにはないが、ご本人の希望を汲み取り、一人一人が楽しめるように工夫しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	室内で楽しめる事、入居者様個々の好きな事を考慮し、こちらが提供する課題なども楽しんで頂けるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の病状や体調希望を考慮して訪問診療が今まで通院していた病院の継続かを決めています。	かかりつけ医は利用者と家族の意向で決定している。協力医療機関、配置の看護師より随時助言を得て、体調面・支援方法について職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入院時の医療機関との連携を取り、入院中の様子などの把握、帰所後の対応の等の指示も綿密に受けています。薬については施設の看護職員と、日常の状態などを共有し調整を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先病院のソーシャルワーカーや看護師との連携を取り、退院時や退院後の状態や対処法を共有しています。その際ご家族様には今後の意向などの相談をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に、重度化に対する指針を説明し、入居者様の病状の変化に伴いご家族様に相談しています。終末期に関しては、早い段階でご家族様に相談し、今後の方針を主治医と相談しています。	看取り介護については、利用者の希望に沿う姿勢であるが、本人と家族の意向を尊重しながら主治医とも協議し、本人にとって適切な対応になるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、緊急時のマニュアルを作成し、職員全員に理解把握するように努めています。新人スタッフに関しては、過去に合った事例などを伝え、対応方法の指導をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年二回の防災総合訓練を行い、夜間日中の対策をしています。地震、水害時などの訓練はできていません。BCP計画は作成し、今後も見直しをしていく予定です。	BCPを策定し、定期的に見直ししながら火災・地震等の災害を想定した避難訓練を定例で実施している。町内会や法人との協力体制も含め、備蓄品の確認を行い、不意の災害に備えている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団生活は、入居者様個人のプライベートが少ないため、居室に入るときなどの対応をスタッフに指導しています。入浴や排泄時など、尊厳を損なわないように注意喚起しています。	礼儀は介護の基本であることを踏まえ、言葉使いや応接、プライバシーへの尊重等を日頃から気をつけるように徹底し、尊厳の重視に向けて臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向を聞き入れ、確認するようにしています。欲しいものなども訴えがあれば敏速に対応し、ご本人の希望を言える環境づくりを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の気分や機嫌を考慮し、入浴日の変更やその他の誘導を気遣うようにしています。レクなども同様で、気分に応じ、本人に合わせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事等で着物を着たり、楽しめる衣装を着て頂いたり、普段の自分と違う事を楽しんで頂いています。月一回の訪問美容を受けて頂き、健常者と変わらない日常を提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様個々の好きなもの嫌いなものを把握して提供しています。なるべくしっかり食べて頂けるように、食材カットや盛り付けなどを考えています。テーブル拭きなど簡単なお手伝いをして頂いています。	献立は職員が作成し、利用者一人ひとりの状態に合わせて調理をしている。お手伝いをお願いしながら、庭先での昼食やみんなでの焼肉会など、楽しい食事になるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や水分量は毎日記録に残し食事量や水分量の低下がみられたり、体調を考慮して補助食品を使用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けしケアして頂いています。本人の状況に合わせて、介助方法や声掛け方も工夫し、行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンを把握し、時間の感覚を考慮して、その方にあった声掛け、誘導し、失禁を軽減できるよう支援しています。排泄状況に応じた水分や食事を提供しています。オムツ等は一人ひとりの体調にあったものを変化により検討しています。	個々のタイミングを時間で把握し、声掛けを工夫しながらトイレへの誘導を行っている。羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の排便パターンを把握することでご本人の負担にならない下剤の使用に努めています。必要に応じて医療機関と相談し、予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	冬至には柚子をいれて、ゆず湯を楽しんだり、スタッフと会話しながら入浴を楽しんでいます。入浴日に外出予定や病院受診がある場合は、入浴日を変更し入浴して頂いています。	出来る限り、利用者の希望に沿えるようにしている。拒否のある場合も、利用者の気持ちに寄り添い、声掛けに工夫しながら、心地よく入浴出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個人の生活習慣や体調に合わせています。室温や物音等に配慮し、良眠できるように、配慮しております。夜間、安眠に繋がるように日中レクリエーション活動に力をいれて昼夜逆転にならないように工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	トリプルチェックにて内服支援を行っています。服薬の情報は、ファイルし常に確認できるようになっています。変更がある場合は申し送りノートや朝礼で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの可能な範囲でお手伝いや役割をもち張り合いのある生活ができるように支援しています。毎日体操や色々なレクリエーションを工夫して行っています。外部から月2回体操の先生を招いています。音楽療法も月1回来てもらっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症により、あまり外出が出来ない状態ですが、夏は散歩に出かけたり、人の少ない公園に外出したりしています。	緩和後は感染防止に留意しながら、散歩や買い物等、個別対応にて可能な限り、外出が出来るよう支援している。コロナ禍で自粛していた行事等も職員間で再開に向けて話し合っている。	個別に声掛けし、嗜好品の買い物支援や近隣の散策等、閉じこもらない介護に取り組んでいる。今後、更なる外出支援の計画がある事から、その進展に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事の時はご本人に自身の財布を持って頂き、ご自身で支払いをして頂くようにしていました。コロナが蔓延してからは中止していましたが、落ち着いたらまた買い物にでかける予定です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や知人に年賀状や暑中見舞いなど代筆をし様子がわかるようにしています。ご家族様やご親戚、知人に電話をかけたい時には意向に沿っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に合わせた飾り付けを入居者様と一緒に装飾しています。日常の写真の掲示などで外部の方に様子が分かるようにしています。	リビングでは、食卓やソファで利用者それぞれが寛いで過ごせる空間作りをしており、温・湿度管理や換気、音や光に配慮している。利用者と共に作成した季節を感じられる作品を掲示する等、温かみある雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置しその日の気分に合わせて過ごしてもらえるように工夫しています。夏はウッドデッキで日光浴をして頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前より使用されていた馴染みのある家具や写真などを持ってきていただき、安全な居室作りを行っています。	家族の協力を得て、本人の日常に馴染みある備品や家具、家族写真等を飾り、動線に配慮した配置で心身の状況に合わせた居心地の良い生活環境となるよう、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は廊下やトイレに手すりを設置し、移動の際には安全に自立歩行ができるように支援しています。できること、できそうなこと、できないこと、を見極めスタッフ同士で情報交換し、少しでもできることを増やせるように、環境を整えています。		